

1. 働く「子育て」世代女性の横顔

本『パートタイマー白書』は、結婚時に正社員で働いていた20代から40代までの既婚女性と、正社員とパート・アルバイトとともに雇用する企業の双方にアンケートを実施し、その結果を分析している。既婚女性本人には、結婚・出産・育児等に関わる働き方やその意向、企業には正社員とパート・アルバイトの雇用について聞くとともに、女性の継続就労に関しても質問した。

回答した既婚女性の就労状況は、現在正社員またはパート・アルバイトで働いている者がそれぞれ4割弱、無職の者が2割強となっている(表1-1.1)。

パート・アルバイトとして働く者にその就労状況を聞くと、労働時間が週30時間未満の者が8割以上(図1-4.2)、個人年収は103万円以下が約7割である(表1-8)。また、パート・アルバイトで働く理由として最も多いのは、子供の有無にかかわらず「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」。2位は子供の有無で違いがあり、「子供あり」では「家事や育児と仕事の両立を図りたいから」、「子供なし」では1位と同率で「扶養の範囲内で働きたいから」が並び、いずれも6割以上の回答を集めていた(表1-3)。

正社員として働く者にも同様に尋ねると、個人年収は「200～400万円未満」との回答が多い(表1-8)。正社員で働く理由は「雇用が安定しているから」が73.5%で最多であり、「他の雇用形態よりも賃金が高いから」が43.8%で続く。「子供あり」の者では、「福利厚生が手厚いから」の回答割合が43.7%と、「子供なし」の24.5%に比べ20ポイント近く高かった。福利厚生の具体的内容は問うていないが、「子供あり」の正社員で特に高くなっていることから、何らかの育児支援を想定しての回答と考えられる。一方、「自身のキャリア(仕事経験や知識・技術等)を維持・向上したいから」は、「子供なし」の33.3%に対し「子供あり」では20.4%に留まる(表1-5)。同じ正社員でも、子供の有無によって、働く目的・意識には違いが見られる。

では、そもそも彼女たちにとっての「働く目的」は、収入なのか、そうでないのか。これについては、全体の8割以上が、働く目的を「『収入を得るため』に近い」と回答していた。また、子供がいる就労者ほど、その傾向が強い。無職または子供がいない者では、全体と傾向は大きく変わらないものの、「『自身の成長や社会との関わりを持つため』に近い」との回答割合が多くなる(図1-2)。実際、自身の収入が家計に占めている比重は、子供がいる者ほど高い。本調査で見る限り、育児期でかつ妻が就労している家庭ほど、金銭的に厳しい状況にあるようだ。特に正社員で働く「子供あり」の者では、自身の収入がなくなった場合に「日々の最低限の生活すら難しくなる」者が26.8%に達した。育児にかかる費用が少なからず負担になり、働くことを選んでいる様子が見てとれる(図1-9)。

1-1 個人 回答者属性

本調査は、20～40代の既婚女性を対象とし、「正社員」と「パート・アルバイト」が4割ずつ、「無職」が約2割になるよう、割合を調整して行った。加えて、雇用形態ごとに子供の有無も調整し、概ね「子供あり：子供なし＝4：1」となるようにしている。

回答者の子供の状況をみると、8割の回答者に子供がいる。子供の年齢は、「末子が3歳未満」が22.6%で最も多く、次いで「末子が中学生以上」が20.2%となっている。また、子供の人数は「2人」が47.2%、「1人」が36.6%となり、3人以上の子供がいる回答者は16.2%と2割に届かない。

回答者本人の年代を見ると、20代が10.6%、30代が43.3%、40代が46.0%となり、30代以上の層が約9割となっている。

表1-1.1 現在の雇用形態

	割合 (%)	人数
正社員	38.2	509
パート・アルバイト	38.6	515
無 職	23.2	310
計	100.0	1334

表1-1.2 現在の雇用形態と子供の有無

		割合 (%)	人数
正社員	子供あり	30.5	407
	子供なし	7.6	102
パート・アルバイト	子供あり	30.9	412
	子供なし	7.7	103
無 職	子供あり	18.6	248
	子供なし	4.6	62
計		100.0	1334

表1-1.3 子供の有無とその年齢

	割合 (%)	人数
子供なし	20.0	267
子供あり／末子が3歳未満	22.6	302
子供あり／末子が3歳～小学校入学前	16.0	214
子供あり／末子が小学1～3年生	10.7	143
子供あり／末子が小学4～6年生	10.3	138
子供あり／末子が中学生以上	20.2	270
計	100.0	1334

図 1-1 子供の人数

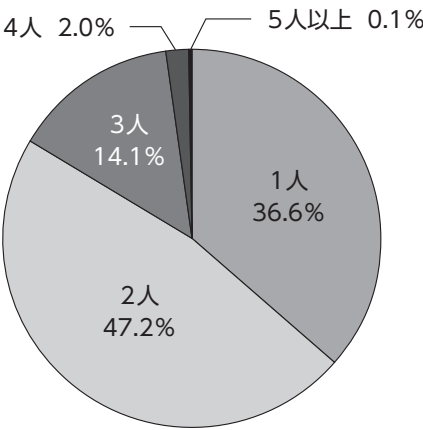


表 1-1.4 年代

	割合 (%)	人数
20代	10.6	142
30代	43.3	578
40代	46.0	614
計	100.0	1334

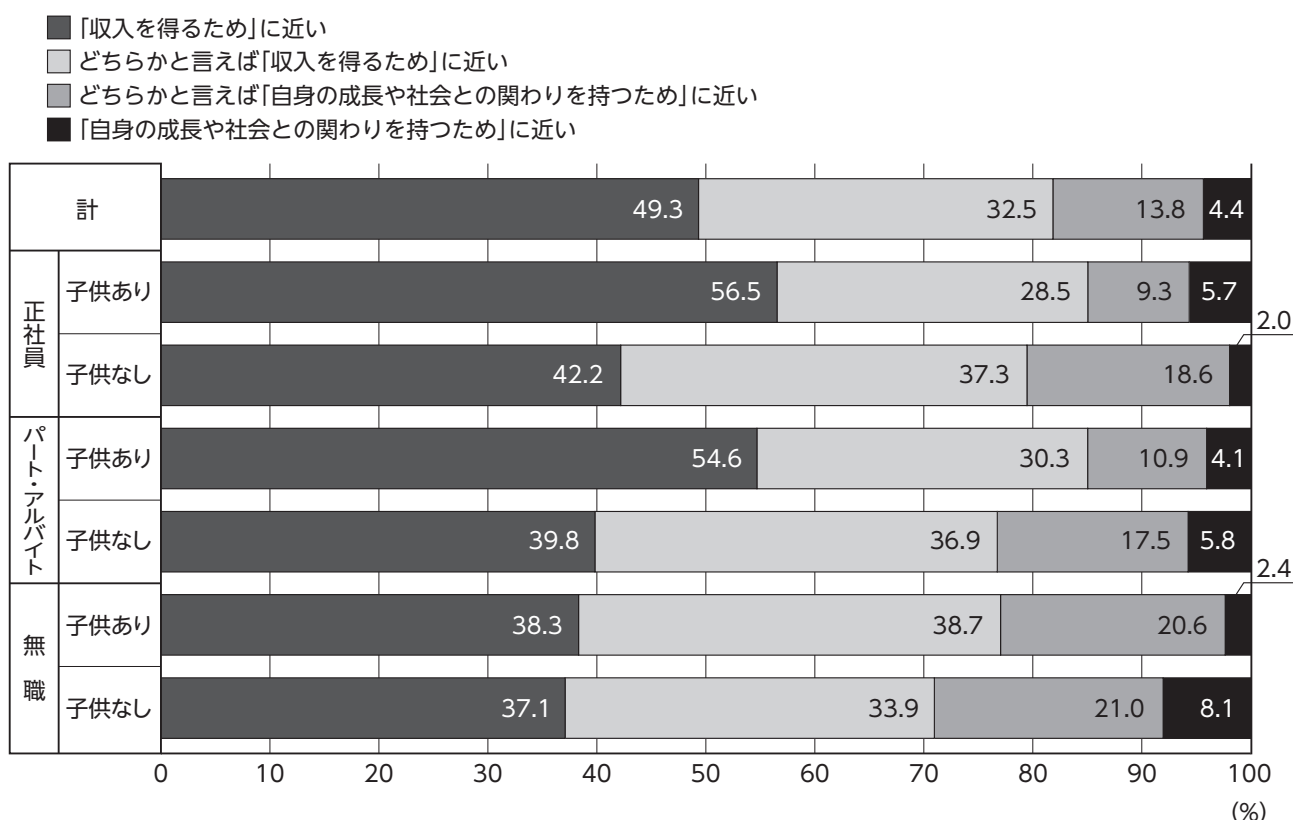
1-2 個人 就業観

働く目的は、「収入を得るため」が8割以上

回答者全員に、自分の働く目的は「収入を得るため」と「自身の成長や社会との関わりを持つため」のどちらに近いかを聞いた。全体では「『収入を得るため』に近い」49.3%、「どちらかと言えば『収入を得るため』に近い」32.5%となり、8割以上の回答者が「働く目的は収入を得ること」と考えていた。

これを現在の雇用形態と子供の有無で見ると、「正社員／子供あり」と「パート・アルバイト／子供あり」では「『収入を得るため』に近い」という回答が5割を超え、それぞれ「正社員／子供なし」と「パート・アルバイト／子供なし」よりも15ポイント近く多くなっている。現在働いている者では、子供がいる方が、収入を得ることに對してより強い意向を持っている様子がうかがえる。また「無職／子供なし」では、働く目的が「『自身の成長や社会との関わりを持つため』に近い」「どちらかと言えば『自身の成長や社会との関わりを持つため』に近い」と考える者が、正社員とパート・アルバイトよりも増える傾向にあり、合わせて29.1%となった。

図 1-2 就業観



自由意見 個人

- 仕事量が減り、内容もつまらないので辞めたいが、収入のために働いている。(40代／正社員／子供あり)
- 子供と家にいると、どうしても視野が偏りがちになるので外に出て成長したい。(30代／無職／子供あり)

1-3 個人 現在「パート・アルバイト」で働く理由

「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」が62.7%

現在、パート・アルバイトで働いている者に、パート・アルバイトで働く理由を聞いた。最も多い理由は「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」で62.7%。次いで、「家事や育児と仕事の両立を図りたいから」56.1%、「扶養の範囲内で働きたいから」55.5%となっている。

これを子供の有無で見ると、子供がいてもいなくても「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」が最大の理由であることに違いはない。しかし、「子供あり」の場合は、「家事や育児と仕事の両立を図りたいから」という回答が62.1%に上り、「子供なし」の約2倍になる。一方「子供なし」の場合は、「扶養の範囲内で働きたいから」「気楽に働きたいから」が、「子供あり」の場合よりもそれぞれ10ポイント近く増加している。子供がいる家庭は家事・育児との兼ね合いの中で、子供がいない家庭は比較的ゆとりがあり、パート・アルバイトという働き方を選択している様子がうかがえる。

表1-3 現在「パート・アルバイト」で働く理由〈複数回答〉

	自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから	家事や育児と仕事の両立を図りたいから	扶養の範囲内で働きたいから	気楽に働きたいから	家の近くで働きたかったから	短期間働きたいから	興味のある仕事はパート・アルバイトでの募集だったから	正社員としての職が得られないから	すぐに働き始めたかったから	正社員で働くことは家族（配偶者や親など）が反対するから	派遣社員としての職が得られないから	その他
計	62.7	56.1	55.5	36.5	35.5	22.7	15.7	14.6	6.6	5.0	1.2	4.9
子供あり	62.9	62.1	53.9	34.0	37.9	24.5	15.8	15.5	7.0	4.1	1.5	4.4
子供なし	62.1	32.0	62.1	46.6	26.2	15.5	15.5	10.7	4.9	8.7	0.0	6.8

(%)

自由意見 個人

- 今の職場は家からも近く、子供が風邪の時も休みやすいのでとても働きやすい。
(40代／パート・アルバイト／子供あり)
- 今は、自宅近くで家事・育児にあまり影響がなく、短時間で「働ける」仕事をしています。もう少し子供が大きくなったら、自分が「働きたい」仕事を探したい。(40代／パート・アルバイト／子供あり)
- 賃金ははっきり言って安いですが、職場が家の近くにあり、休みも簡単に取れるので、たぶんそこで働き続けると思う。(40代／パート・アルバイト／子供あり)
- 好きな時間と曜日を選んで、気楽に働けているのはありがたい。(40代／パート・アルバイト／子供なし)

1-4 個人 パート・アルバイトが従事している仕事と労働時間

「事務職」が31.8%、全体の8割以上が週30時間未満の勤務

現在、パート・アルバイトで働いている者に、従事している仕事と1週間の労働時間を聞いた。パート・アルバイトが従事している仕事は、「事務職」が最も多く31.8%、次いで「サービス職」21.2%、「医療・介護職」13.2%となっている。また、1週間の概ねの労働時間は、多い順に「週20～30時間未満」42.9%、「週10～20時間未満」33.4%となっており、8割以上のパート・アルバイトが週30時間未満で働いている。

図1-4.1 パート・アルバイトが従事している仕事

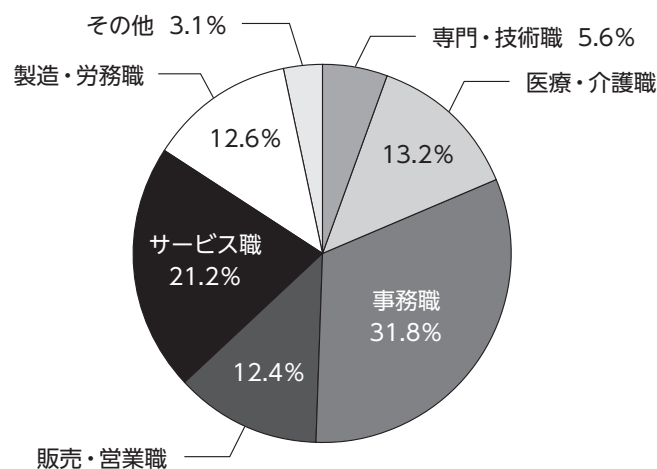
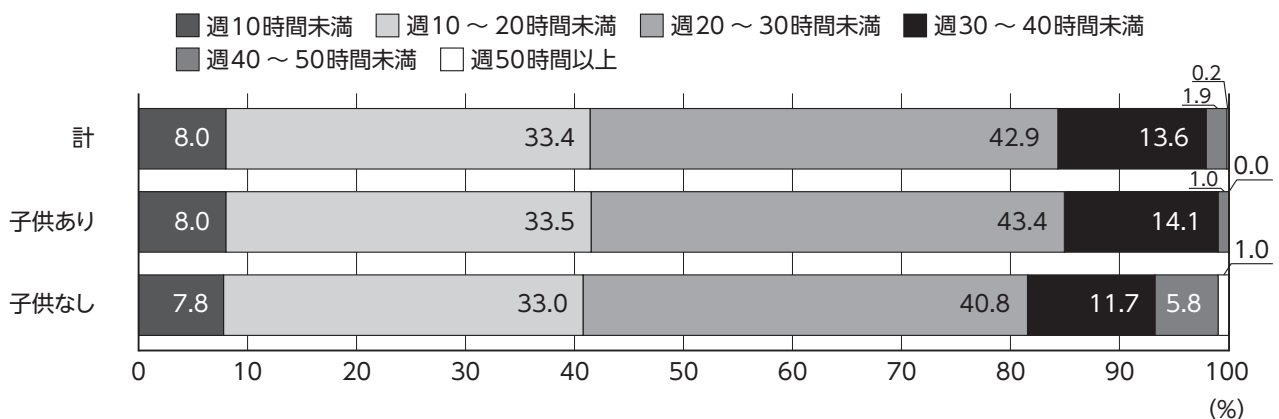


図1-4.2 パート・アルバイトの労働時間



自由意見 個人

- 週3日、休憩を入れて1日6時間のシフトで働いている。家事と両立できてありがたい職場だが、本音を言うと、もう少し長い時間働いて収入を増やしたい。(30代／パート・アルバイト／子供あり)

1-5 個人 現在「正社員」で働く理由

「雇用が安定しているから」が最も多く73.5%

現在、正社員で働いている者に、正社員で働く理由を聞いた。その結果、「雇用が安定しているから」が最も多く73.5%、次いで「他の雇用形態よりも賃金が高いから」43.8%、「福利厚生が手厚いから」が39.9%となっている。

これを子供の有無で見ると、「子供あり」の場合は、「福利厚生が手厚いから」という回答が43.7%となり、「子供なし」の24.5%を大きく上回っていた。また、「退職金や年金が手厚いから」という回答も「子供なし」に比べ約10ポイント高くなっており、正社員と他の雇用形態で待遇に差があることが多い項目が上位に挙がった。一方、「子供なし」の場合は、「自身のキャリア（仕事経験や知識・技術等）を維持・向上したいから」「自身をより成長させたいから」の回答割合が、「子供あり」を上回り、子供のいる正社員よりもキャリアアップの意向が強いことがうかがえる。

表1-5 現在「正社員」で働く理由〈複数回答〉

	雇用が安定しているから	他の雇用形態よりも賃金が高いから	福利厚生が手厚いから	退職金や年金が手厚いから	正社員で働くことが当たり前だと思うから	自身のキャリア（仕事経験や知識・技術等）を維持・向上したいから	自身をより成長させたいから	社内で現在の職位や立場を維持したいから	他の雇用形態よりも、より責任ある仕事をしたいから	興味のある仕事がある、正社員での募集だったから	社内でもっと昇進・昇格したいから	他の雇用形態よりも、教育・訓練が手厚いから	正社員で働かないと、世間体が悪いから	その他
計	73.5	43.8	39.9	30.1	28.1	23.0	19.4	13.4	10.8	8.6	4.5	1.6	1.6	3.5
子供あり	74.0	44.0	43.7	31.9	28.0	20.4	18.4	13.3	10.6	8.6	4.2	2.0	1.2	3.7
子供なし	71.6	43.1	24.5	22.5	28.4	33.3	23.5	13.7	11.8	8.8	5.9	0.0	2.9	2.9

(%)

自由意見 個人

- 福利厚生は厚く、会社全体が安定しており、安心感がある。現在はほとんど残業もなく、自分の時間をたくさん持てるので満足している。（30代／正社員／子供なし）
- 福利厚生が充実し、出産・育児をしながら働くことのできる職場である。（30代／正社員／子供あり）
- 仕事の内容にはとても満足。「もっと能力を向上させないと」と焦りを感じている。（40代／正社員／子供なし）
- 現在の職場は制度も良く、収入も安定しているが、有給休暇や時短制度は取りにくい雰囲気がある。（20代／正社員／子供あり）

1-6 個人 正社員が従事している仕事と労働時間

「事務職」が54.0%、「週40～50時間未満」での勤務者が49.3%

現在、正社員で働いている者に、従事している仕事と1週間の労働時間を聞いた。正社員が従事している仕事は、「事務職」が最も多く54.0%、次いで「医療・介護職」15.5%、「専門・技術職」11.0%となっている。また、1週間の概ねの労働時間は、「週40～50時間未満」49.3%、「週30～40時間未満」29.3%となっている。

子供の有無別で見ると、「子供なし」の場合は、「子供あり」に比べて1週間の労働時間が長い者が多い。

図1-6.1 正社員が従事している仕事

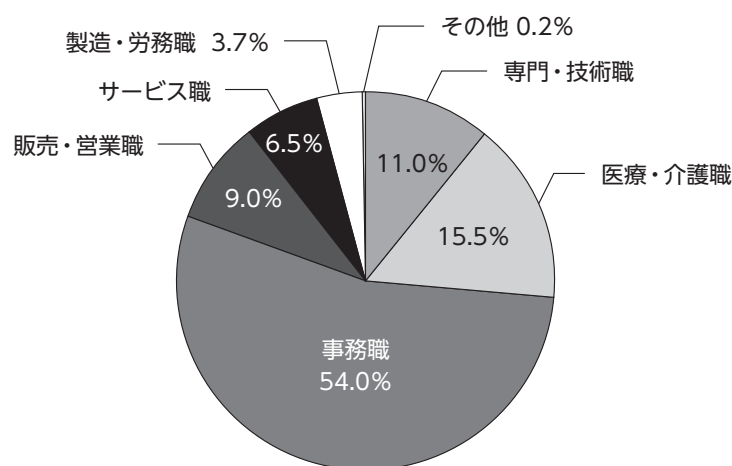
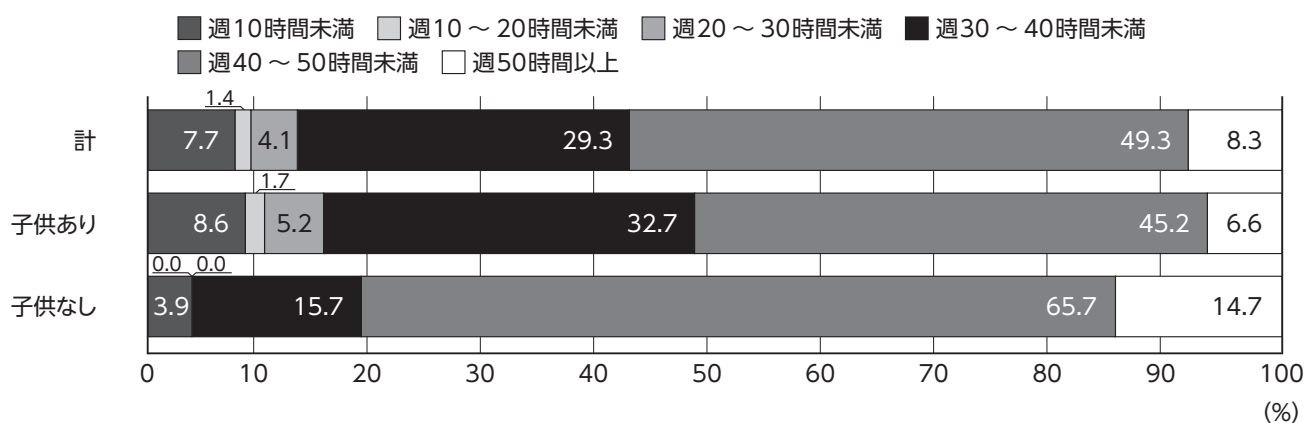


図1-6.2 正社員の労働時間



1-7 個人 世帯年収

400～700万円未満の世帯が半数以上

回答者全員に、自身と配偶者の収入を合わせた、昨年1年間のおおよその世帯年収を聞いたところ、「500～600万円未満」、「600～700万円未満」、「400～500万円未満」がそれぞれ17.8%、16.8%、16.2%と拮抗している。

これを雇用形態と子供の有無で見ると、回答者である妻が正社員で働いている家庭の方が、妻がパート・アルバイトや無職の家庭よりも世帯年収の高い層が多くなっている。また、正社員と無職では「子供なし」の場合の方が、「子供あり」に比べ世帯年収が高くなる傾向にある。

また、「働く目的」と世帯年収の関係を見ると、世帯年収が低くなるほど働く目的が「『収入を得るため』に近い」という回答割合が増える。反対に「『自身の成長や社会との関わりを持つため』に近い」は、世帯年収が高くなるほど回答割合が増える傾向にある。

表1-7.1 世帯年収

		～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1,000万円未満	1,000万円以上
計		0.6	2.5	7.3	16.2	17.8	16.8	12.4	9.3	6.0	11.0
正社員	子供あり	0.2	1.5	3.7	10.6	14.5	18.9	14.7	11.5	7.4	17.0
	子供なし	1.0	2.9	1.0	6.9	10.8	19.6	19.6	11.8	8.8	17.6
パート・アルバイト	子供あり	1.0	1.9	8.0	18.0	22.6	16.3	12.4	7.8	3.9	8.3
	子供なし	0.0	3.9	6.8	26.2	18.4	19.4	10.7	6.8	2.9	4.9
無職	子供あり	0.8	4.0	13.3	22.2	16.9	12.9	8.1	8.1	6.9	6.9
	子供なし	0.0	4.8	12.9	16.1	22.6	12.9	6.5	9.7	8.1	6.5

(%)

表1-7.2 働く目的と世帯年収

	「収入を得るため」に近い	どちらかと言えば「収入を得るため」に近い	どちらかと言えば「自身の成長や社会との関わりを持つため」に近い	「自身の成長や社会との関わりを持つため」に近い
計	49.3	32.5	13.8	4.4
～200万円未満	75.0	25.0	0.0	0.0
200～300万円未満	67.6	20.6	8.8	2.9
300～400万円未満	66.0	27.8	4.1	2.1
400～500万円未満	58.3	29.2	10.6	1.9
500～600万円未満	52.9	34.0	11.8	1.3
600～700万円未満	54.9	32.1	9.8	3.1
700～800万円未満	43.4	32.5	16.9	7.2
800～900万円未満	41.9	34.7	15.3	8.1
900～1,000万円未満	27.5	41.3	23.8	7.5
1,000万円以上	29.3	35.4	25.9	9.5

(%)

1-8 個人 個人年収

パート・アルバイトは「103万円以下」、 正社員は「200～400万円未満」

現在、正社員またはパート・アルバイトで働いている者に、昨年1年間のおおよその年収を聞いた。

正社員の場合、「子供あり」では「200～300万円未満」が25.8%、「300～400万円未満」が24.6%と上位になっている。一方、「子供なし」では、多い順に「300～400万円未満」38.2%、「200～300万円未満」28.4%となり、「子供あり」の場合よりも、年収の高い層が増加する傾向にある。

一方パート・アルバイトでは、「子供あり」の場合は「103万円以下」が73.3%、「103万円超～130万円未満」が15.8%となり、約9割が130万円未満の年収であった。「子供なし」の場合も同様の傾向で、130万円未満の年収の者が8割以上となっている。

表1-8 個人年収

		103万円以下	103万円超～130万円未満	130～150万円未満	150～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800万円以上
計		38.9	9.2	3.4	8.0	14.6	14.0	6.7	2.7	1.8	0.4	0.3
正社員	子供あり	6.4	2.5	4.2	13.3	25.8	24.6	12.3	5.7	3.9	0.7	0.7
	子供なし	2.0	1.0	1.0	4.9	28.4	38.2	17.6	4.9	1.0	1.0	0.0
パート・アルバイト	子供あり	73.3	15.8	3.6	2.9	3.2	0.7	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0
	子供なし	66.0	17.5	1.9	10.7	2.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

自由意見 個人

- 扶養の範囲内で働くことを前提に探した職場であり、休みたい時に休めるので収入面での不満はない。
(40代／パート・アルバイト／子供あり)
- 毎年時給が上がったり、残業が多かったりで税金面で厳しくなっている。扶養から外れないように働くために、勤務日数を減らすなど苦労している。(40代／パート・アルバイト／子供あり)

1-9 個人 自身の収入が家計に占める比重

「日々の最低限の生活すら難しくなる」のは、 「正社員／子供あり」家庭に多い

現在、正社員またはパート・アルバイトで働いている者に、もし自身の収入がなくなった場合に、生活状況がどのようになるかを聞いた。

雇用形態と子供の有無で見ると、自身の収入がなくなると「日々の最低限の生活すら難しくなる」割合が高いのは「正社員／子供あり」で、26.8%となっている。正社員で働く者の年収はパート・アルバイトよりも高かったが、その分、家計における自身の収入の役割も大きくなっているようだ。一方、雇用形態にかかわらず全体の傾向として、「子供なし」の場合には、「子供あり」の場合よりも「将来的な貯蓄や娯楽費の捻出が難しくなる」「自分の収入がなくなっても、特に生活状況は変わらない」という比較的ゆとりのある層が多くなっている。加えて、正社員で働く者よりも、パート・アルバイトで働く者の方が、余裕のある生活状況であることがうかがえる。

また、これを世帯年収で見ると、世帯年収が300万円未満である家庭の5～6割が、自身の収入がなくなると「日々の最低限の生活すら難しくなる」と回答している。世帯年収が増えるにつれ、自身の収入がなくなった場合の家計の逼迫度合は低くなっていく。

図1-9 自身の収入が家計に占める比重

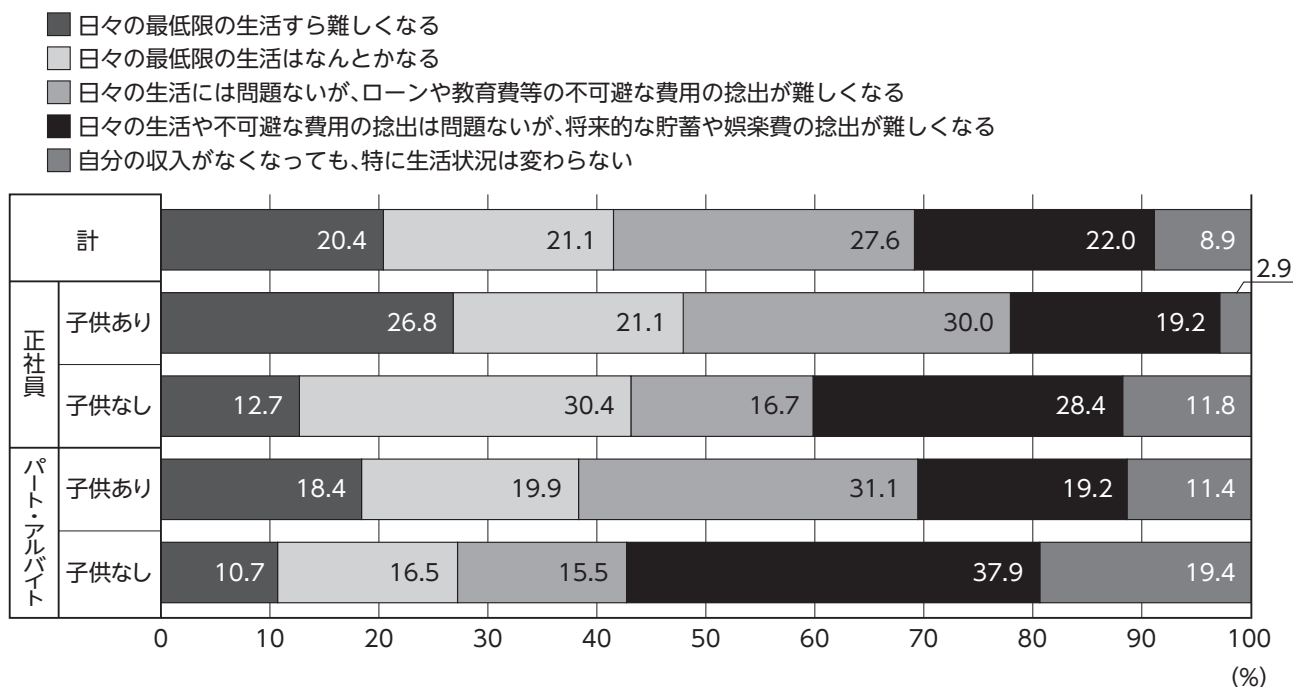


表1-9 自身の収入が家計に占める比重と世帯年収

	日々の最低限の生活すら 難しくなる	日々の最低限の生活はな んとかなる	日々の生活には問題ない が、ローンや教育費等の 不可避な費用の捻出が難 しくなる	日々の生活や不可避な費 用の捻出は問題ないが、 将来的な貯蓄や娯楽費の 捻出が難しくなる	自分の収入がなくなつて も、特に生活状況は変わ らない
～200万円未満	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0
200～300万円未満	66.7	19.0	9.5	4.8	0.0
300～400万円未満	35.7	33.9	23.2	5.4	1.8
400～500万円未満	30.5	28.5	22.5	15.9	2.6
500～600万円未満	23.1	23.1	32.4	14.8	6.6
600～700万円未満	22.8	25.0	25.5	20.7	6.0
700～800万円未満	12.7	19.7	31.7	26.8	9.2
800～900万円未満	11.2	12.2	41.8	22.4	12.2
900～1,000万円未満	8.6	15.5	24.1	27.6	24.1
1,000万円以上	6.3	8.7	21.4	44.4	19.0

(%)

自由意見 個人

- 仕事はしていた方が楽しいし、自由に使えるお金も増えるので、楽しんでできる範囲でやりたいと思います。
(40代／正社員／子供なし)
- 今の職場の労働時間や待遇には、満足しています。ただ、従業員が少ないため、休暇が取りにくいのが残念です。しかし今は、子供の教育費をなんとか捻出しないといけないので、贅沢は言ってられません。
(40代／正社員／子供あり)
- 働くママが増えているのに、まだまだ厳しい条件の企業が多い。保育園の数も全然足りないし、旦那の給料だけではやっていけないのだから、どうにかしてほしい。(20代／正社員／子供あり)
- 子供が成長した今、お金はどれだけあっても足りない。(40代／パート・アルバイト／子供あり)
- お金のことを心配して暮らすよりは、多少のストレスを感じながらも働いた方がよい。
(30代／パート・アルバイト／子供あり)
- 家計が苦しいので働きたい気持ちはあるが、子供が小さいので働けない。保育園等に預けて働くにも、預けることにお金がかかるので難しい。(40代／無職／子供あり)
- 子供3人を育てていくためには、今後は働かざるを得ないと思うが、できれば働きたくない。
(30代／無職／子供あり)
- 今の世の中、共働きしないと家計が成り立たない。(20代／無職／子供あり)

1-10 個人 1日の平均家事・育児時間

子供が成長するにつれ、1日の平均家事・育児時間は減少

回答者全員に、1日に家事・育児に充てる時間を聞き、平均化した。全体では、1日の平均家事・育児時間は6.28時間となっている。

子供の有無で見ると、平均は「子供なし」では3.91時間、「子供あり」では6.87時間となっている。「子供あり」をさらに末子年齢で見ていくと、「末子が3歳未満」が9.45時間で最も長いものの、末子年齢が高くなるにつれ家事・育児時間は短くなり、「末子が中学生以上」では4.82時間にまで減る。

これを雇用形態で見ると、「正社員」と「パート・アルバイト」の平均はそれぞれ5.01時間、5.33時間と大きな差はない。正社員の労働時間がパート・アルバイトよりも長いことを考えると、正社員の方が家事・育児の負担感がより大きいように思われる。また、正社員とパート・アルバイトいずれの場合も、「子供あり」の場合は「子供なし」の場合に比べ、平均家事・育児時間が1.5～2倍となっている。

また、1週間の労働時間が長くなるほど、家事・育児に充てる時間は少なくなっている。

表1-10 1日の平均家事・育児時間

子供の有無	全平均		6.28
	子供なし 平均		3.91
	子供あり	子供あり 平均	6.87
		末子が3歳未満	9.45
		末子が3歳～小学校入学前	7.31
		末子が小学1～3年生	5.86
		末子が小学4～6年生	5.64
		末子が中学生以上	4.82
雇用形態	正社員	正社員 平均	5.01
		子供あり	5.54
		子供なし	2.90
	パート・アルバイト	パート・アルバイト 平均	5.33
		子供あり	5.70
		子供なし	3.84
	無職	無職 平均	9.94
		子供あり	11.00
		子供なし	5.68
1週間の労働時間	週10時間未満		6.96
	週10～20時間未満		5.98
	週20～30時間未満		5.07
	週30～40時間未満		4.90
	週40～50時間未満		4.65
	週50時間以上		3.64

(時間)

1-11 個人 1日の平均自由時間

子供が成長するにつれ、1日の平均自由時間は増加

回答者全員に、1日の自由時間（家事・育児・仕事以外の時間）を聞き、平均化した。全体では、1日の平均自由時間は2.78時間となっている。

子供の有無で見ると、平均は「子供なし」で4.15時間、「子供あり」で2.43時間。「子供あり」をさらに末子年齢で見えていくと、「末子が3歳未満」が1.72時間と最も短くなっているものの、末子年齢が高くなるにつれ自由時間は長くなり、末子が小学校高学年以上になると3時間を超える。

また、雇用形態で見ると、平均自由時間は「正社員」1.86時間、「パート・アルバイト」3.06時間、「無職」3.81時間である。いずれの場合も、「子供なし」は「子供あり」に比べて、平均自由時間が1.5～2倍と多くなっている。

1週間の労働時間との関係を見ると、労働時間が長くなるほど、1日の自由時間が減少する傾向にある。

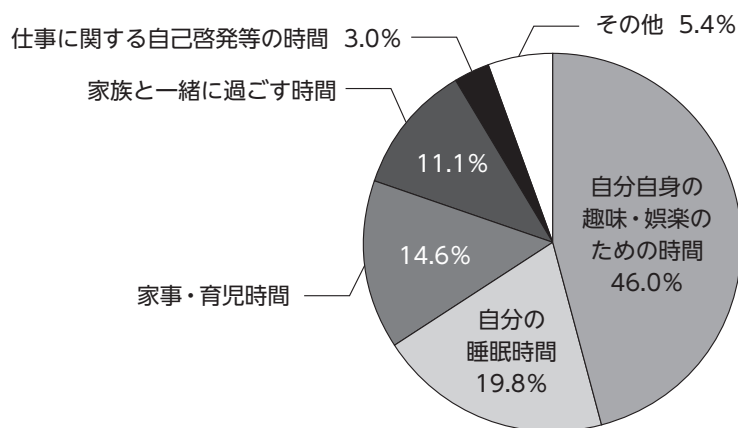
さらに、現在正社員もしくはパート・アルバイトで働いている者に、働くことで「犠牲にしている」と感じる時間を聞いたところ、「自分自身の趣味・娯楽のための時間」が46.0%で最も多くなっていた。

表1-11 1日の平均自由時間

全平均		2.78
子供の有無	子供なし 平均	4.15
	子供あり 平均	2.43
	末子が3歳未満	1.72
	末子が3歳～小学校入学前	2.22
	末子が小学1～3年生	2.53
	末子が小学4～6年生	3.04
	末子が中学生以上	3.03
雇用形態	正社員 平均	1.86
	子供あり	1.64
	子供なし	2.75
	パート・アルバイト 平均	3.06
	子供あり	2.72
	子供なし	4.39
	無職 平均	3.81
1週間の労働時間	子供あり	3.25
	子供なし	6.07
	週10時間未満	3.17
	週10～20時間未満	3.74
	週20～30時間未満	2.59
	週30～40時間未満	1.81
	週40～50時間未満	1.89
	週50時間以上	1.91

(時間)

図 1-11 自分が働くことで「犠牲にしている」と感じる時間



自由意見 個人

- 時短勤務制度はあるものの、10時～17時までがコアタイムのため、退社して急いで帰ってきてても18時くらいになる。これでは、夜の時間（子供と過ごす等）の使い方に支障が出るので、もう1時間でも早く帰れる体制で働ければと思う。（30代／正社員／子供あり）
- 働くことはいいことですが、子供がいると、「色々犠牲にしているのでは…」と罪悪感を抱くこともあります。（30代／正社員／子供あり）
- 待遇は悪くないと思うけれど、子供を犠牲にしているとも思う。一旦退職して、5年後に同条件での復帰が確約されるなら、辞めてもいいと思う。（30代／正社員／子供あり）
- 現在の職場は、生活時間を確保できるため、全く不満なし。前職は、拘束時間が長かったため家事が疎かになり、家庭内不和をきたした。家事をある程度こなそうとすると、月200時間以上の勤務は辛いと思う。（30代／正社員／子供なし）
- 家事・育児との両立のため、どうしても時間に制限があり、どちらも中途半端になってしまう。家族と過ごす時間や気持ちのゆとりが欲しい半面、経済的なことを考えると金銭面のゆとりも捨てがたい。（40代／正社員／子供あり）
- 子供に負担をかけず、かつ自分の時間もほしいので、土日休みで1日4時間勤務の現状に満足しています。（40代／パート・アルバイト／子供あり）

1-12 個人 利用している保育サービス

正社員は「一般の保育所」「学童保育」の利用率が高い

末子が小学生以下の回答者に、現在末子がどのような保育サービスを利用しているかを聞いた。

末子が小学生未満の者は、50.2%が「一般の保育所」を利用している。特に、正社員で働いている者はその利用率が73.0%と高い。一方「幼稚園」の利用率は、全体では18.2%だが、パート・アルバイトだと24.5%、無職では32.9%となり、正社員の6.0%に比べると格段に高くなっている。

末子が小学生の者の8割以上は、「利用している保育サービスはない」と回答した。「学童保育」の利用率は全体では14.6%だが、正社員で働いている者では高くなり、33.8%となっている。

表1-12.1 利用している保育サービス／末子が小学生未満〈複数回答〉

		一般の保育所 (認可・認可外含む)	幼稚園	勤務先等の事業所内 保育所	ファミリーサポート センター	保育ママ	ベビーシッター	その他	利用している 保育サービスはない
	計	50.2	18.2	2.5	2.3	0.4	0.4	1.7	27.3
末子が 小学生未満	正社員	73.0	6.0	4.8	3.2	0.8	0.8	0.4	16.3
	パート・アルバイト	64.9	24.5	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.6
	無 職	8.2	32.9	0.0	2.4	0.0	0.0	4.7	53.5

(%)

表1-12.2 利用している保育サービス／末子が小学生〈複数回答〉

		学童保育	ファミリーサポート センター	その他	利用している 保育サービスはない
	計	14.6	1.1	0.4	84.7
末子が小学生	正社員	33.8	1.4	1.4	64.8
	パート・アルバイト	10.8	1.3	0.0	88.6
	無 職	0.0	0.0	0.0	100.0

(%)